

2023 年度 関西学院大学総合政策学部研究会

学生地域貢献等活動助成事業

秋田県仙北市西木町地域の
グリーン・ツーリズム運営持続のための提案

報告書

関西学院大学総合政策学部 研究演習 I16・II20

秋田県仙北市西木町地域のグリーン・ツーリズム運営持続のための提案

報告書

目次

実施内容	牲川 波都季	p.1
泰山堂		
報告 1	掛水 南帆	p.4
報告 2	山下 那南	p.5
報告 3	岸 紘葵	p.6
報告 4	北内 僚	p.7
報告 5	時任 由樹	p.8
星雪館		
報告 1	石川 幸	p.10
報告 2	林 修我	p.11
報告 3	川口 侑花	p.12
報告 4	塩野 莉彩	p.13
報告 5	福崎 汐音	p.14
報告 6	山柘 日向子	p.15
総括	牲川 波都季	p.16

1 事業名

秋田県仙北市西木町地域のグリーン・ツーリズム運営持続のための提案

2 期間

2023年9月14日～9月16日

3 チーム名

関西学院大学総合政策学部 研究演習 II16・II20

4 場所・参加者

代表教員 牲川 波都季

泰山堂 5名

星雪館 6名

5 趣旨

秋田県仙北市西木町は住民主導でグリーン・ツーリズム(GT)を運営してきた歴史をもつ。しかし、近年の急速な少子高齢化により、運営農家の高齢化と次世代への引継ぎ、また Covid-19 流行中の受入れ中止の影響により、運営継続が危ぶまれている。今回の訪問により、GT を実際に体験し、農家の他者受け入れ方略と思想を観察し、その魅力を認識したうえで、運営持続のための方策の提案をめざす。

6 活動内容

次ページ

9月14日(木)	15:20	秋田空港 到着ロビー集合
	16:30	JR 角館駅 着
	16:30	JR 角館駅前 蔵集合
	16:40	農家へ移動 泰山堂 星雪館 ※初対面時のコミュニケーション方略の観察
		農家民宿体験 ※農家民宿および農業の現状について聞き取り
9月15日(金)		各農家で農作業体験 ※作業時の説明の仕方,GTでの作業の実際を観察
		農家民宿体験 ※引き続き,農家民宿および農業の現状について聞き取り
9月16日(土)	10:00	農家から発
	10:30	全員集合 泰山堂
		コメント会&昼食交流会 ※各農家での観察・聞き取り結果,GTの運営継続のための提案を発表
	13:30	会場 発
	14:00	JR 角館駅 着 解散
	16:20	JR 角館駅 発
	17:20	秋田空港 着 解散

泰山堂



掛水 南帆

9月14日～16日、2泊3日の秋田合宿に参加した。農作業に加え、農家民宿を行なわれているご夫婦の家に宿泊させていただき、玄米の包装過程やばあちゃんの料理を手伝わせていただいたり、教えていただいたりした。秋田弁が聞き取れず戸惑いながらも、自然に囲まれた泰山堂で、秋田県の良さを感じられたように思う。泰山堂の周辺を散歩した際に見た、広く広がる空と田んぼが印象に残っている。その風景に心洗われ、非日常を体験することができた。じいちゃんもばあちゃんもこれまでに民宿にきたお客さんのことを沢山話してくださり、様々な個性を持つ人々と関わることを楽しんでいるように見えた。私自身、人と関わることに関する卒業論文を考えているため、改めて人との関わり素晴らしさを感じられたように思う。この3日間でご夫婦の暖かさに触れ、故郷に帰ってきたような感覚になることができた。



山下 那南

昨年ゼミ活動の一環として、稲刈りと稲架掛けを体験した。今回の体験は、昨年のように農作業と聞いて一番初めに想像する作業ではなかった。米袋一つずつに責任者の名前が掘られたハンコを押す作業や、機械



を用いて粃摺りをして米袋に詰める作業を体験した。昨年とは違い、農家の裏側を知る良い機会になったと感じる。昨年まで使っていた機械が壊れ、今年から新たな機械を導入したという。しかし、機械の使用方法を間違えており、設定よりも多くの米が袋に入っていた。正しい使用方法に気付くまで30分ほどかかったが、その後は効率良く米袋に詰められていった。農家の方が慣れない機械に向き合う姿や、頻繁に粃や出来上がった米を手にとって真剣に見つめる姿が印象的だった。農家の身体的な苦労だけではなく、精神的な米に対するこだわりを身近に感じることができた。

農作業以外のコミュニケーションについて、初日は方言の違いにより、話を聞き取ることに苦戦した。思い返すと、聴くことに精一杯で会話が一方通行だったように思う。しかし、日が経つにつれ、聞き取れなかった場合は聞き返したり、話に関連した質問を返したり双方向の会話ができるようになった。

秋田で農家民泊が継続していくには、やはり教育機関との連携が必要だと考える。農家民泊がない都道府県もあるが、各県内に数か所ある場合が多い。この状況では、遠方からの訪問者には限度がある。そのため、近隣の小中高校でイベント化したり、全国



各地の大学と継続的に繋がったりする方法が効果的だと考えた。

岸 紘葵

私は、初めて東北地方に行き、自然の豊かさに触れ、たくさんの経験ができた。秋田合宿で特に印象に残っている出来事が2点ある。1つ目は、農業体験における農家の方々の姿勢である。私が滞在した泰山堂では、お米を袋に入れる作業をした。稲刈りのような作業をイメージしていたが、機械でお米を集めて、それを袋に詰めて運ぶというとても裏方の仕事体験をした。最初、作業を見たときは、泥だらけにならない簡単な作業なのかと思ったが、思った以上に大変だった。機械でもみすりした後に袋にお米が入られるまで、粉が倉庫中に巻き散っており、とても埃っぽい環境の中で重たい米袋を運んだり、大量にある袋にも1つ1つ責任者の名前を記入しないといけなかったり、想像以上に大変だった。だが、その中でもネガティブな発言を1つも発さず、お米1粒1粒を大切に取り扱い、農作業に取り組む姿勢に感銘を受けた。

2つ目は、秋田の方々の優しさである。時間があるときに近所を歩いたりしたが、すれ違う人はみんな笑顔で挨拶してくれたり、話しかけてくれたり、自分の地元ではないことなので、とても田舎の良さを感じた。人だけではなく、すれ違う犬や猫も人懐っこく、動物もフレンドリーな町なのだと思った。また民家のおばあちゃんの言っていた言葉で、海外の方が来た時も、動物としゃべるときも、言語は関係ないと言っていて、言葉が通じなくても気持ちは伝わるものだと感じる事ができた。

秋田県に対して、行きたいと思ったことはなかったが、今回の合宿を通して、秋田の自然、人の優しさに触れて秋田がとても好きになりました！



北内 僚

秋田合宿で1番印象深かったことは、泰山堂のばあちゃんと南帆さんと一緒に2日目の昼ごはんを作ったことです。いくつかのメニューを作ったのですが、その際の調理への工夫や特製のレシピなどを教えても



らい非常に勉強になったことや、ばあちゃんがじいちゃんの小話をしてくれたことで、距離が縮まったからです。

またご飯で使う材料のほとんどが自分で育てたり貰い物だったり、普段ではあまり見られないものを見せてもらいました。

せっかく来たからには色々なところを知りたいと思い、毎日散歩したのですが、高い建物がなく空が広く見えたり、静かだったり、とても気持ち良く時間がゆっくりに感じられました。散歩中すれ違う人全員が必ず挨拶をしてくれたり、「泰山堂に来ているの？」などと話しかけてくださり、とても温かい場所でした。



秋田の農家民泊を継続していくには、やはりインターネットでの宣伝が1番良いと考えますが、ご年配の方々には操作など難しいものがあります。そこで、泰山堂にあった、実際に泊まった人が書く思い出ノートのようなものに着想を得て、泊まった人が感想などを書くサイトを作ると良いと考えます。

写真の1枚目は玉ねぎを撮りにきたばあちゃんで、2枚目は散歩中の景色です。

時任 由樹

今回、かつて文化政策論の授業でも触れていたような秋田のグリーンツーリズムを
実際に行っている場所に行って「いい意味で思ったものと違う」と思った。

事前に配布された資料や、文化政策論で知った留学生を取り囲む環境を事前知識
として行ったことで、現場ならではの苦悩した経験や経営が厳しいなどの話をして改善
のために自分たちの考えを現地で議論するのかなどと考えていた。



ところが現地にて食事の時間に
女将さんからいろいろお話を聞いた
が「あの時に来たあの子はこん
ないところ
があった」、

「留学生さんはみんな日本語が達者で会話に困ることはなかつ
た」と好意的なものばかりだった。一応学びに来ているだけあつ
てか真剣な話をする場面もあったがそれでも訪れた人々と触れ
合った話を楽しそうに話しているところが殆どだった。



もちろん客人である自分たちの前では暗い姿は見せないのだ



ろうが多種多様
な触れ合いは
少しずつ多くの人に積み重ねられて
いるのだなと思った。

星雪館



石川 幸

私は今回のゼミ合宿が初めての東北、秋田でした。自分にとって未知の世界だったので行く前は緊張しましたが、行くとそこはとても素敵な場所でした。宿泊させて頂いた星雪館は、空気がとても綺麗で自動車や周りの音が全くしない場所で、このような空間は都会では体験できないと感じました。また、ふじさんとばばが作ってくださった料理は東北ならではの料理で、それらはどれも絶品で本当に美味しかったです。

2日目の午後にふじさんが鶴の湯温泉と田沢湖に連れて行ってくれました。大自然に囲まれた鶴の湯温泉は関西には無いような解放感でとても気持ちよかったです。田沢湖は水が透き通っており穏やかで心が浄化されました。

秋田は、自然豊かで空気も綺麗で、人も優しく、訪れるだけで心温まる場所だなと思いました。今回の合宿で、私は秋田が大好きになりました。また、グリーンツーリズムについての興味・関心も深まったため、今後調べてみたいと思います。



林 修我

普段都会中心に旅行したので、電波が悪いという秋田に合宿すると聞いた時に緊張しました。宿泊させていただいた星雪館は広い畑以外は何もなかったので、最初は不安でしたが2泊3日間素敵な時間を過ごしました。



もっとも印象的だったのは、2日目の午後にふじさんが鶴の湯温泉と田沢湖に連れて行ってくださったことです。古風な感じの趣のある温泉と魚が見えるほどに透明な湖は自然の美しさをたっぷり感じる事ができました。特に田沢湖は青い水越して見える周りの山並みがきれいで外国に来た感じでした。また、ふじさんとばばが作ってくださった料理は東北の食材を使って普段味わえなかったものがあり、毎回気を使っていたいで美味しい食事ができました。



秋田合宿は日本の自然と余裕を感じられるいい機会でした。今度機会があればまた来たいくらい秋田が好きになりました。周りの留学生たちは秋田のことを知らない子が多いので、秋田は良いところであることを紹介したいと思います。



川口 侑花

秋田合宿において一番印象に残った点として「観光業の問題点」が挙げられます。農家の方と自分自身の就職希望先について話していた際に、「企業は現地のことをあまり知らない」という言葉が印象に残りました。

農家の方によると、大企業になるほど、現地にあまり足を運ぶことなく、観光ツアー等を組んでいることが多いとのことでした。この意見というのは観光業に興味のある私自身にとってはとても貴重な意見でした。

また、最近ではコロナ前に比べ、長期滞在を希望する外国人観光客が多くいることを知りました。

そして、長期滞在する外国人観光客は秋田を起点として、様々な東北の地域へ観光に訪れること、あるいは日本での田舎体験をすることを目的とする人もいることを学びました。

これらの情報をもとに、将来的に自分自身が観光業界に携わることとなった際には観光に来る人々だけでなく、現地の人々にも満足してもらえるツアープランを作成したいと感じました。

このように、今回の秋田合宿では、普段の生活では味わうことのできない貴重な体験ができたと思います。



塩野 莉彩



今回の合宿を通して秋田の良さやグリーンツーリズムの在り方を学ぶことができました。滞在した仙北市は自然豊かで、すぐそばに山があって道路の横には田んぼが広がっていて、普段私が生活している環境と全く異なる場所でした。訪問した時期は熊がよく出ていたので、自分たちで散歩することはできなかったですが、2日目に連れて行ってもらった乳頭温泉や田沢湖で自然を楽しむことができました。

ふじさんからこれまでの印象的だったお客さんの話や民宿を始めた話を聞いて、星雪館の魅力やグリーンツーリズムの良さを学びました。お客さんは1泊の方が多いのにも関わらず、1回の滞在でふじさんたちの温かさや秋田の自然に惹かれて長い付き合いになることが多いことが印象的でした。

また、民宿は農家で働く女性のスキルを活かして生活を豊かにすることが大きな目的だと学びました。ふじさんも泰山堂のお母さんも民宿の仕事は楽しいと仰っていたのが印象的でした。しかし、仙北市は若者が少なくなっているみたいで、街としても限界集落になってしまうかもしれない状況だそうで、民宿を継ぐ次の世代が必要だと話されていて過疎化の深刻さを知りました。



福崎 汐音

初めての東北でまず驚いたのは、秋田に着くまでの飛行機からの景色でした。畑や山々の緑が広がり、私が生活している地域では見られない景色でした。秋田に到着してからも、町の静けさと建物の少なさによる遠くまで見渡せる視界に驚きました。星雪館で外国人の宿泊者の話を聞いて、翻訳アプリなどを活用すれば会話することに問題はないことを知りました。また、宿泊した外国人がふじさんの母国にいる自分の母親に会わせたいと頼んだ話が印象的でした。私も宿泊して感じましたが、秋田の人々の温かさや、笑顔で迎えてくれるアットホームな雰囲気は外国人にも同じように感じられるのだと思いました。



私たちは移動には車を使いました。町の人々の主な移動手段はほとんどが車で、車以外の交通手段は少ないことを知りました。ふじさんのお父さん(80歳代?)もまだ免許を返納せずに車を運転しており、町には同様の方が多くも分かりました。車の中からは畑で作業するおじいちゃんたちをよく見かけ、高齢化を感じました。薪を運んで積み上げる作業を通じて、農作業を行うのはおじいちゃんたちだけでなく、秋田の小学生など若い人たちも関わっていることを知りました。若い世代が高齢の方々のために肉体的にハードな仕事を引き受ける構図は素晴らしいと感じました。



暖かい人々、静かで広々とした景色、夜に見えた星、どれも素晴らしく、行って良かったと思います。

山栴 日向子

今回が秋田に行くこともグリーンツーリズムに参加することも、初めてのことでした。庭でとれた野菜や手作りのいぶりがっこなどここでしか味わえない食材を使った手料理や、自分たちで作ったきりたんぼなどは最高でした。料理を手伝ったり、お話をすることで都会ではなかなか感じるこのできない人の温かみを感じられました。



普通の観光では絶対に体験できない、その土地で実際に営まれている暮らしに参加することができて、リアルな秋田を知ることができたと思います。また、主婦の人たちが自分の持っている料理などのスキルを活かし、お客さんをもてなすというグリーンツーリズムの目的の一つでもある「女性の生きがいづくり」という点で考えても、もてなしてもらう側ももてなす側もが winwin の関係でいられるというのがとても良いと感じました。

ふじさんたちのとても温かい人柄の良さやおもてなしの心と、自然が豊かな非日常的な空間、そしてそこで普通に営まれている生活を味わえることが年齢や国境をも超えて、みんなの身と心を癒し、それらが今回お邪魔した星雪館をはじめとした農家民宿が人気である理由なのかなと思いました。

これからまたどこかへ旅行へ行くときは、こういったグリーンツーリズムも検討してみようと思います！



総括

牲川 波都季

9月14日～16日までの日程で、4年ぶり4回目の秋田でのフィールドワークを実施しました。秋田県仙北市西木町は、長年、国内外から農業体験希望者を受け入れてきた地域です。その歴史は1980年ごろに遡ることができ、行政ではなく農家主導で運営が続けられてきた点でも、日本有数のグリーン・ツーリズム先進地と言えます。

受け入れ農家のみなさんは、高度な外国語能力をもっているわけではありません。それにもかかわらず、日本語が堪能とは言えない海外出身者を自宅に招き入れ、参加者みなさんが満足に感じる体験事業を行ってきました。農家のみなさんは、全くの他人とどのような方法で意思疎通を図っているのか、その方法を支えるのはどのような考え方なのか。

牲川ゼミの学生は、西木町グリーン・ツーリズム研究会の代表、門脇富士美氏の星雪館、元代表の藤井けい子氏の泰山堂に分かれて宿泊し、今年も、農作業を手伝いながら、他者と伝い合おうとする意志の出所を探りました。

ゼミ生たちは、自分たちが緊張している段階から、農家のみなさんが語りかけてくれ、ゆったりした温かな時間をすごすことができました。東北のイメージが変わった、日本の余裕を味わうことができた、将来就きたい観光業に対するヒントがもらえたといった報告もありました。

星雪館の門脇氏によれば、西木町への来訪者はCovid-14流行の影響下で激減していましたが、最近是国内だけでなく、海外からの長期滞在者も増えているということです。本ゼミも含めリピーターも戻ってきており、農家のもてなしが忘れがたいものを残してきたことの結果だと思えます。

西木町では事業の継続が課題となっていますが、こうした事業の存在を本学部の学生に知らせることが継続の一助となれるよう願っています。今後もこうした、地域での個人間のやり取りを重視したフィールドワークを続けていきたいと思えます。

2023年度 関西学院大学総合政策学部研究会学生地域貢献等活動助成事業
秋田県仙北市西木町地域のグリーン・ツーリズム運営持続のための提案
報告書

発行日	2024年 3 月 31 日
発行	関西学院大学総合政策学部 牲川波都季 669-1330 兵庫県三田市学園上ヶ原1番
編著者	関西学院大学総合政策学部 研究演習 I・II
問い合わせ先	牲川 波都季 segawa@kwansei.ac.jp
